

5年理科 週テスト 第30回実施 (5分)

① 明るく白い光を出して燃えるものはどれですか。記号で答えなさい。

- ア いおう イ 木炭 ウ マグネシウム エ 鉄

② 右の図1のA～Cで、最も明るい部分はどこですか。記号で答えなさい。

③ 右の図1のPの位置に、ガラス棒を入れたときの説明として正しいものはどれですか。

記号で答えなさい。

- ア Aの部分が黒くなる イ Bの部分が黒くなる ウ Cの部分が黒くなる エ 変化はない

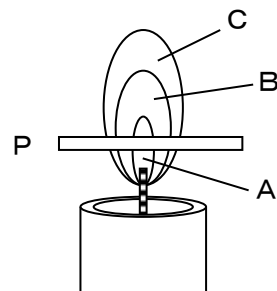


図1

④ 右の図2で、試験管の口にたまった液体は、Aが黒く、Bは黄色

でした。正しい組み合わせはどれですか。記号で答えなさい。

- ア A : 木炭、B : 木酢液 イ A : 木タール、B : 木ガス
ウ A : 木タール、B : 木酢液 エ A : 木ガス、B 木炭

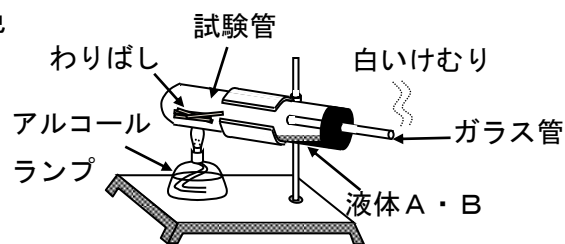


図2

⑤ 右の図2で、ガラス管の先から出る白いけむりにマッチの火を近づけるとどうなりますか。記号で答えなさい。

- ア ほのおを出して燃える イ マッチの火が消える ウ パチパチと火花を出して燃える

マグネシウムと銅の粉末を、異なる金属製の皿に入れ、それぞれよくかき混ぜながら、図3のようにガスバーナーで十分に加熱しました。マグネシウムと銅の重さをいろいろ変化させ、生じた酸化マグネシウム、酸化銅の重さとの関係を調べたところ、図4のグラフのようになりました。⑥～⑩を求めなさい。ただし、⑨と⑩は最も簡単な整数比で答えなさい。

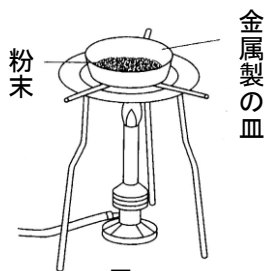


図3

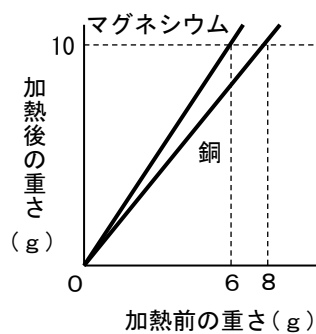


図4

⑥ 銅 12 g を十分に加熱してできた酸化銅

⑦ 酸化マグネシウム 30 g を作るのに必要な酸素

⑧ 10 g の酸素と十分に反応する銅

⑨ 銅とマグネシウムを 12 g ずつ十分に加熱したとき、できる酸化銅と酸化マグネシウムの重さの比

⑩ 酸素 1 g と反応する銅とマグネシウムの重さの比

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
					g	g
⑧	⑨	⑩				
g	:	:				

氏名

/100

5年理科 週テスト 第30回実施 復習用

① 明るく白い光を出して燃えるものはどれですか。記号で答えなさい。

ア いおう イ 木炭 ウ マグネシウム エ 鉄

② 右の図1のA～Cで、最も明るい部分はどこですか。記号で答えなさい。

③ 右の図1のPの位置に、ガラス棒を入れたときの説明として正しいものはどれですか。記号で答えなさい。

ア Aの部分が黒くなる イ Bの部分が黒くなる ウ Cの部分が黒くなる エ 変化はない

④ 右の図2で、試験管の口にたまった液体は、Aが黒く、Bは黄色でした。正しい組み合わせはどれですか。記号で答えなさい。

ア A：木炭、B：木酢液 イ A：木タール、B：木ガス
ウ A：木タール、B：木酢液 エ A：木ガス、B木炭

⑤ 右の図2で、ガラス管の先から出る白いけむりにマッチの火を近づけるとどうなりますか。記号で答えなさい。

ア ほのおを出して燃える イ マッチの火が消える ウ パチパチと火花を出して燃える

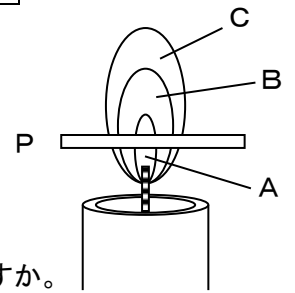


図1

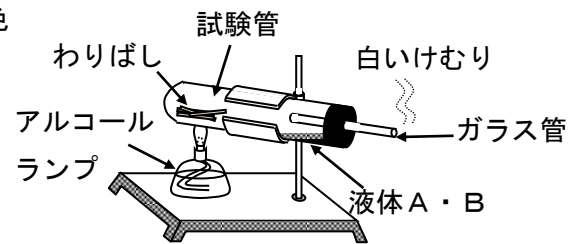


図2

マグネシウムと銅の粉末を、異なる金属製の皿に入れ、それぞれよくかき混ぜながら、図3のようにガスバーナーで十分に加熱しました。マグネシウムと銅の重さをいろいろ変化させ、生じた酸化マグネシウム、酸化銅の重さとの関係を調べたところ、図4のグラフのようになりました。⑥～⑩を求めなさい。ただし、⑨と⑩は最も簡単な整数比で答えなさい。

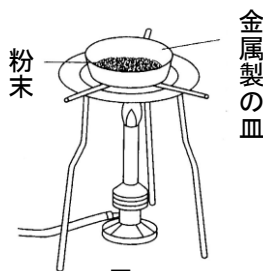


図3

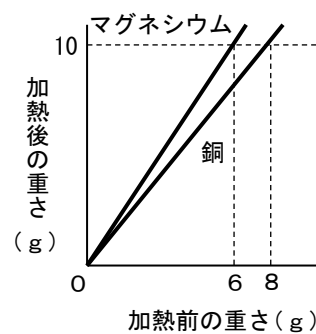


図4

⑥ 銅 12 g を十分に加熱してできた酸化銅

⑦ 酸化マグネシウム 30 g を作るのに必要な酸素

⑧ 10 g の酸素と十分に反応する銅

⑨ 銅とマグネシウムを 12 g ずつ十分に加熱したとき、できる酸化銅と酸化マグネシウムの重さの比

⑩ 酸素 1 g と反応する銅とマグネシウムの重さの比

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
					g	g
⑧	⑨	⑩				
g	:	:				

氏名

/100

5年理科 週テスト 第30回実施 解答

10 点 × 10 = 100 点

① ウ

② B

③ イ

④ ウ

⑤ ア

⑥ 15 g

⑦ 12 g

⑧ 40 g

⑨ 3 : 4

⑩ 8 : 3